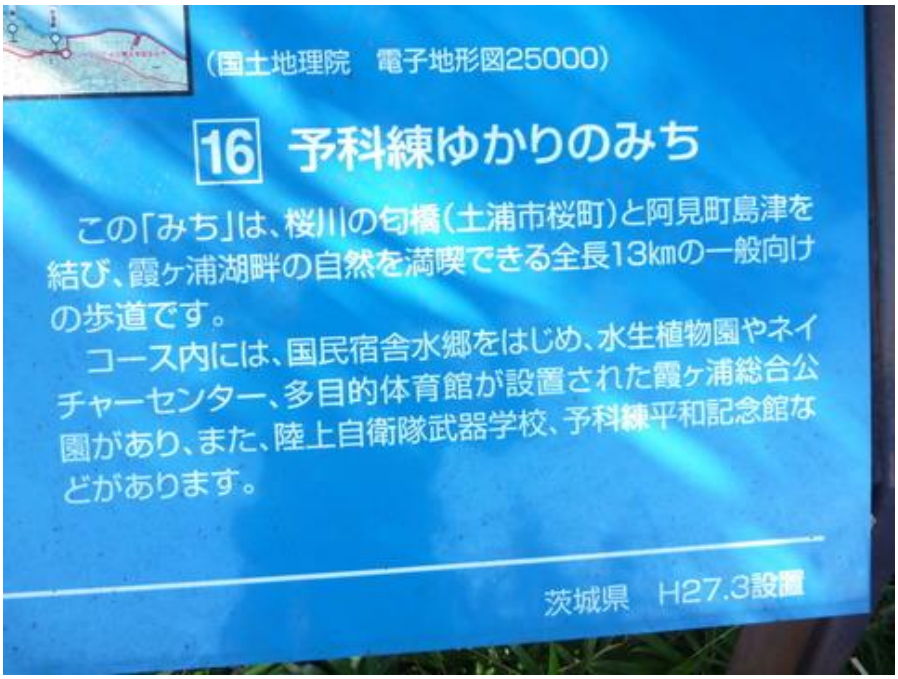
関東ふれあいの道（茨城）⑯予科練のみち

2022 年 3 月 11 日池内淑皓

2021 年 11 月 25 日（木）快晴。季節では小雪であるが、暖かく穏やかな日和であったので歩くことにした。今日のコースは、桜川を霞ケ浦の河口まで歩いて、霞ケ浦湖畔を周遊する。お目当ては「予科練平和祈念館」を訪ねる事と、土浦城を見学することにある。
コロナによる自粛があるけれど、かつて多くの若者達が憧れ、戦場に散っていった訓練の場所を訪ねてみよう

「関東ふれあいの道（茨城）⑯予科練ゆかりのみち」案内板（首都圏自然歩道連絡協議会）



今日のコース案内板

コース図（匂橋→新屋敷） 13km・3 時間

今日の最寄り鉄道下車駅は 常磐線 「土浦駅」 8:45 到着

駅から歩いて、前回ゴール地点の桜川に架かる「匂橋」に行く。この橋は老朽化のため車は通れない

匂橋を渡って　桜川の右岸沿いに下って霞ケ浦に向かう。朝の散歩は空気が澄んで、穏やかで良いね

常磐線のガードを潜る、茅で塞がれているが何とか通れる

河口が近くなるに従って川幅が広くなってきた、水は茶色く濁っている

遥か栃木の県境から 64km流れてきた桜川が今、霞ケ浦に注ぐ

土浦の市街地と遠方筑波山が遥に見える。穏やかな湖面であるが、霞ケ浦の水も濁っている

琵琶湖に次ぐ日本で二番目に大きな湖、面積 220k㎡。富栄養化と農業排水のため、水質汚濁がひどい

農業用水が入り農薬汚染、レンコン栽培の泥水も流れ込む。

1963 年海からから塩害を防止するため常陸側水門を作り、淡水化した影響も響く

1978 年にはワカサギ、白魚、小海老、鮒等漁獲量 17 千トンもあったが、2000 年には 2,400 トンに激減した。

「汚れた湖」、「死んだ湖」のイメージになってしまう

蓮河原船溜には船はなく、釣り人が糸を垂れるだけ

関東ふれあいの道案内板も、なんとなく哀れを感じる

「霞ケ浦総合公園」かつては、国民宿舎も置かれた素敵な公園であったが、今は廃業してしまった。文化体育館、運動場がある

海老、小魚類が住みやすいように灌木、漁礁を置いて環境整備を始めた

道は陸上自衛隊の敷地にぶつかり、通れないから花室川を遡って、一旦国道 125 号線に向かう

「予科練平和祈念館」 茨城県土浦市阿見町、ここに大正時代霞ケ浦海軍航空隊が出来た。
昭和 14 年飛行予科練習部が横須賀から移転してきて教育・訓練の中心地となる

14 歳から 17 歳までの青少年を全国から選抜して、飛行搭乗員としての教育訓練を行なう（記念館にて）

”若き血潮の予科練の　七つボタンに　桜に錨　今日も飛ぶ飛ぶ　霞ケ浦にや･･･”　少年達あこがれの的であったと云う

航空機の重要性が認識され、旧海軍は多くの熟練搭乗員を育成する必要に迫られた

厳しい規律と、月月火水木金金と言われるほど、激しい教育と訓練があったと伝える

15 年間で約 24 万人の青少年が入隊し、24,000 人が戦地に赴き、約 19,000 人が帰らぬ人となった

（予科練平和祈念館パンフより）

形見として遺品を残し、特攻隊として戦地へ飛び立って行った。予科練習生の中には人間魚雷回天、水上特攻艇震洋、人間機雷伏龍の乗組員として訓練された人も居た

昭和 20 年 6 月、予科練教育は凍結され、航空隊は解散となった。

奇しくも今日、横須賀陸上自衛隊少年工科学校の生徒達が見学に来ていた。

記念館の隣にある陸上自衛隊武器学校を、金網越しに垣間見る事が出来た

記念館外にゼロ戦の模型が展示されている。開戦当初は優秀機であったが、パイロットの命を軽視した構造のため、アメリカ軍にその弱点を突かれて敗北してゆく

何とも胸が塞がる気持で記念館を後にする。再び霞ケ浦を見て”ホッ”とした

折角ここまで来たのだから記念に一枚

土手道は舗装され、サイクリングロードとなり、自動車も通れるドライブコースともなっている。歩いていても安心できない。

右側はレンコン畑で、高圧の水で泥水を跳ね上げ、レンコンを採る。跳ね上げた泥水が霞ケ浦に流れ込み、水質汚濁を起こす。

泥水は霞ケ浦に沈積し湖を浅くする。最大深さ 9m、平均 4mの浅さだ。湖を深くするために浚渫しているが、追いつかない

船溜には係留したままの漁船が目立つ、湖で漁をしている船はなかった

船溜まりの脇には「水神様」が祀られているが、手を合わせて安全と豊魚を祈ったのは、いつ頃であったろうか

ふれあいの道は再び防衛省の敷地にぶつかり、行き止まりとなるから道は方向を変え、湖を離れる

農道を横切り、霞ケ浦を離れ、バスが通る掛馬の集落に向かう

昔の道は阿見、大室、掛馬、島津、新屋敷と集落を継いでいる、大正に入って予科練が出来て、
軍の連絡路として、国道 125 号線が土浦から江戸崎まで開通させた

今日のゴール、新屋敷バス停に到着 13:40 分であった。ここから土浦駅に戻る。折角だから、土浦城を見学してから帰ろう

「土浦城」常陸の国の要衝に位置する。隣の石岡市は奈良時代国衙のあった所。室町時代若泉氏によって土浦城が築かれた、その後小田氏の居城となり、天正 18 年豊臣秀吉の小田原征伐で、北条が滅びるまで小田氏が治めた。

秀吉の時代には結城秀康、徳川の時代は、慶長 6 年（1601）譜代の松平信一が 3 万 5 千石で土浦藩が生まれた。

その後西尾氏、朽木氏と変わるが最終的には寛文 9 年（1669）から譜代大名の土屋氏が 9 万 5 千石を得て明治まで続く。

「櫓門」 明暦 2 年（1656）の改修、本丸にある櫓門としては、関東地方で唯一現存する文化財となっている

「二の丸門跡」高麗門　江戸末期の築、土浦は水戸街道の宿場町として、また霞ケ浦水運と結び、水陸交通の要衝であった

日差しもだいぶ西に傾いて来た、15 時 45 分発の上野行に乗車する

[参考タイム]　土浦駅（9：02）→匂橋（9：20-9：30）→霞ケ浦総合公園（10：20-10：30）→予科練記念館（11：10-12：00）→掛馬集落（13：06）→新屋敷ゴール（13：36-13：55）→土浦駅（14：20）土浦城見学。

この項完

「関東ふれあいの道（茨城）⑰水の恵みを知るみち」に続く